



今月の案内人
今本町 稲垣 英夫さん



昨年5月に行われたなんじゃもんじゃのライトアップ



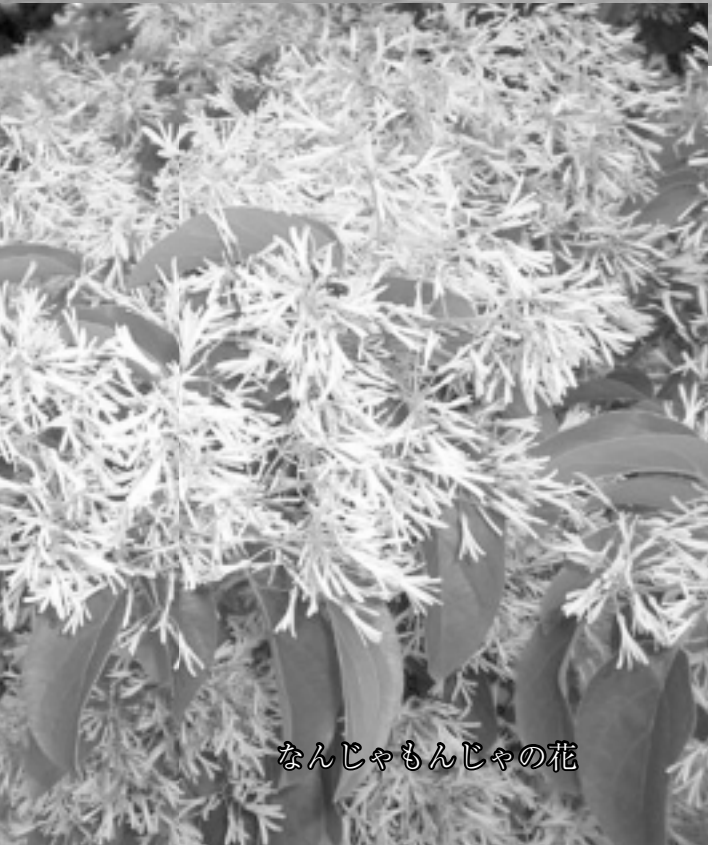
「きれいな花が咲くけどこの木の名前はなんじゃもんじゃ」という由来から呼び名のついた「なんじゃもんじゃ」。正式な名前は、ヒトツバタゴといいます。皆さんは、どのようにこの名前を読みますか？よく、「ヒトツバタゴ」と区切ることが多いのですが、本来は「ヒトツバ」「タゴ」と読みます。

そもそもの由来は、なんじゃもんじゃに似ているトネリコ（タゴ）という木からきています。このトネリコの葉っぱの形は羽状複葉になっていて、のに対して、なんじゃもんじゃは一枚（一葉）であるため一葉のタゴ「ヒトツバ・タゴ」と名づけられました。日本で自生しているのは、木曾川の流域と九州の対馬のみという大変珍しい木です。

安城北部小学校にこのなんじゃもんじゃがやってきたのは、今から80年近くも前の昭和2年のこと。今本町の神谷礼治氏から寄贈されました。当時、神谷氏は自生地である犬山へ勤めに行っていました。そこで美しいなんじゃもんじゃの花に魅せられ、その美しい姿を学校の子どもたちに見せようと思いました。しかし、木の持ち出しは禁止されていたため、若木をもらうのは容易ではありませ

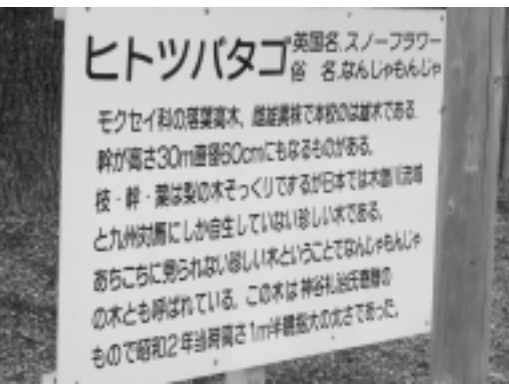
ませんでした。困難を乗り越えてこの小学校に植えられたなんじゃもんじゃですが、わたしが子どものころには、運動場に伸びると危ないからと枝を切っていたのか、丸裸な印象で花も咲いていませんでした。

この木が有名になったのは30年くらいからです。今では、もともとの自生地である愛知・岐阜県境の人にも見に来るほど立派な姿になりました。しかし近年、木が弱ってきたため、樹木医の診断を受けたそうであ



なんじゃもんじゃの花

その14 安城北部小学校のなんじゃもんじゃの木



★安城北部小学校（今本町）